

授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

留学プログラム名	派遣交換留学		
所属(本学)	社会理工学研究科 経営工学専攻		
現在の学年	修士1年		
留学先国	シンガポール	留学先大学	シンガポール国立大学
留学期間	2016年1月1日～2016年12月10日		

① 留学先大学の概略

留学先のシンガポール国立大学は、QS World University Ranking では12位に位置し、アジアでは1位に位置する大学だ。その為、現地の大学生だけでなく、世界中の一流の大学からの交換留学生が集まり、切磋琢磨し合う環境が整っている点が大きな特徴である。私はNUSのBusiness Schoolでファイナンスの授業を履修していたが、一年間で40カ国以上の学生と出会うことができ、自分の経験では理解できない視点や、逆に世界共通で通じる視点に触れることが出来た。

② 留学前の準備

私は修士の間に留学したが、留学期間は国内の研究活動を一時停止し、授業や議論を通して自分の専攻分野の理解を深めることに重点を置いた。英語の習熟に必要な期間も考えると、最低一年行く必要があると考えたので、卒業はその分後ろ倒しにすることを決めた。

就職活動については、1月に留学を開始し12月に帰国したので、日系企業の本選考やウィンタージョブには間に合った。しかし、外資系企業の選考は11月頃から始まり、何より夏のインターンに参加していなければ可能性はかなり低い為、8月から5月といった期間を取って留学することを勧める。自分の場合は選考に間に合わなかった企業に対しては、ポストンキャリアフォーラムやシンガポールのジョブフェアを利用した。これらのイベントは電話面接やESなど(勿論ほぼ英語)、準備に膨大な時間がかかる為、日頃の授業との両立が非常に難しい。

③ 留学中の勉学・研究

私は大学院の専攻科目であるファイナンスを独学で学んできた分、授業や議論を通して今までの理解が点から線に、線から面に繋がる感覚を味わえたことは非常に良かったと考える。また、留学先のBusiness Schoolは非常に倍率が高く、PrerequisiteやMotivationレター等の厳しい審査があった分、授業を履修していた学生は非常に優秀であった。

授業は普段の日本の形式とは少し異なり、時間は1つあたり3時間が基本であり、授業外にも膨大な課題や予習が個人・グループ単位で両方課される。私が特に苦労した点はActive Participationだ。私は英語力が低くなかなか議論に参加できなかった分、授業の後に教授から頻りに発言を促す意図の連絡がきたが、頑張っても周りは自分の発言が全く的を射ていないと指摘されたり、純粋に英語がたなすぎで伝わらなかつたりする為、最初は本当に地獄だった。しかし、日本人特有の勤勉さは世界でも群を抜いているため、中間テストで猛勉強しクラス2位を達成し、毎週の課題でもコツコツ結果を出すことで周りからの信頼を違う形で獲得し、自分の発言も徐々に聞いてもらえるようになった。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

シンガポールで獲得したグローバルネットワークを利用し、世界中を旅することが出来た。私は学期中数カ国の東南アジアへの旅行以外にヨーロッパやアメリカにも旅行し、それは自分の留学先がシンガポールだったからこそ可能であったと考える。私は1-12月の期間で留学し、学期間の休みは3ヶ月と長い期間あった。そして前述した通り留学先では40カ国以上の仲間がいた為、彼らの家に泊めてもらいながらイングランド、スコットランド、ベルギー、ドイツ、オーストリア、スイスを回った。普通の海外旅行と比べ、観光地以外に、実際の現地の学生と共に過ごしていた為、より現地に刺さった文化に触れることができた点で充実していた。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

意識ベースでの話になるが、2点ある。

1点目は生産性を上げようと常に務めるようになったことだ。

私は今まで「時間をかければいいものが出来上がる」と考えていたが、膨大な課題やグループワークに対応する中で、自分が得意とするやり方が機能しなくなった。そして何より、この様なやり方はシンガポールや中国などのアジア的な方法であるが、思った以上に欧米の優秀な学生から「無能」と軽蔑される。その為、仕事を一つ一つ個別に捉えるのではなく、与えられた時間でどれだけ質と量に拘ることが出来るかが重要であると再確認した。よって、今は何気ないことでも常に生産性が上がる他のやり方はないかと物事を批判的に見る様になった。

2点目は0点と101点という概念だ。

私は英語力のなさもあり、レポート等の個人課題でいい成績をとることが全くできなかった。自分の中では出来の良い仕上がりでも、期待する成績を貰うことはできなかった。そこで、周りの優秀な学生を見てみると、ある共通点があった。例えば2週間後に提出のレポートがあったとして、自分はそれまで2週間かけて自分の100%を作り提出していた。しかし、周りの尊敬していた学生は、まず一週間かけて自分の100%を作り上げ、そこで教授とアポを取ってフィードバックを貰いながら評価者の100%を推測し、残りの1週間をかけて教授の期待の仕上がり近づけていた。以上から、自分が幾ら頑張っても、相手の期待を上回らなければ0点であり、評価者の期待を上回って初めて評価に繋がるのだと学んだ。

⑥ 留学費用

渡航費:	6万円*2=12万円
生活費:	3万円/月 *11=33万円
住居費:	30-35万円程
奨学金:	月10万円支給

⑦ 留学先での住居

NUSの場合は留学生や現地の学生が住む寮環境が充実している。特にUTownと呼ばれる場所は、学生が住む寮が何棟もあり、食堂やATM、スーパーなど、生活に必要な環境が全て整備されており、プールやジム、美容院等施設が充実している。

一学期目はUTownレジデンスという寮に住み、4人の学生と共同生活をした。各自個別に部屋を持ち、リビングをシェアする形式で生活し、私はドイツ人2人とインド人1人で生活した。

二学期目はCollege of Alice and Peter Tanという寮に移った。ここではハウスという概念があり、ハリーポッターの様に4つのハウスに分かれ(グリフィンボール等)、それぞれのハウスで共同生活をする。定期的に行われるイベントは勿論、その寮専用の食堂があり、そこに行けば必ず知っている友人がいる点で、学生間のコミュニケーションを促す為の工夫が充実している。フルタイムの学生以外にも、私はOxford, Edinburgh, Colorado, Adelaideの学生と仲が良かった。

⑧ 留学先での語学状況

英語は常に苦勞していたと思う。なぜなら、語学にはゴールがなく、昔の自分が望む英語力に達したとしてもそれはNativeと比べると程遠いからだ。英語力は日常生活と議論の2つに分けて、意識的に向上に努めた。非常に感覚ベースであるが、日常生活の英語はごまかしが効くため、ある程度の水準に達するのにはあまり時間がかからない。自分の素振りや表情、人間性などの総合的な評価で自分を好きになってくれるからだ。

一方で、授業の議論ではそうはいかない。純粋に自分の思考を言語にして正確に伝えることは、思った以上にハードルが高い。1年間の留学を通してある程度の水準まで上げることは出来るが、私は帰国後も日々向上に励んでいる。

⑨ 単位認定、在学期間

卒業に必要な単位は既に取っているため、単位認定の予定はない。

⑩ 就職活動

留学先では、就活を斡旋している業者があるので、日本人コミュニティを経由して当社にアクセスし、情報を集めることが出来る。また、ボストンやシンガポールでキャリアフォーラムがあるので、参加してみるといい。

⑪ 留学先で困ったこと

目標点の TOEFL を取り終った後に安心して英語をやめてしまったことを後悔している。開始前に映画やドラマを見てネイティブの英語に慣れておくことを勧めます。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

自分の視野や将来の可能性を広げたいという方は、是非留学をしてほしいです。

留学する目標設定のポイントは、「英語を喋れる様になる」としないことです。英語を喋れないと達成できない何かに設定しながら、大きなことを成し遂げて下さい。